

第 3 回 四総信海外視察研修を実施しました！

四総信にて第 3 回海外視察研修(香港・マカオ)を実施しました。平成 27 年 1 月 12 日(月)～16 日(金)までの間、母体銀行の優績者(平成 26 年度上期四総信保証付ローン獲得優績者 20 名)を対象に現地視察の他、みずほ銀行香港支店および大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドの講師を招いての研修を開催しました。

みずほ銀行 香港支店を訪問 「ASEAN の経済」についての講話(一部抜粋)

- ①みずほ銀行香港支店
 - ・活動範囲は中国・香港・台湾・韓国等の東アジアであり、従業員数は約 600 人
 - ・業務は企業取引のみ(預金・融資・貿易・為替・アドバイザー)
 - 過半数が非日系企業であり、香港は日本産農産物の最大の輸出先である。
- ②日系企業の ASEAN 進出動向

労働コスト上昇による生産拠点の移転と市場を狙って日系企業が進出している。経済規模拡大の伸びは中国に劣るものの 2018 年には 2008 年比で約 2 倍になると見込まれている。

ASEAN ではインドネシア・タイを筆頭に世帯所得が 2.5～10.0 万ドルの中間層が拡大し、日本の一人当たり GDP 1960 年～1980 年レベルまで成長しており、日系企業は統括・輸出・労働集約型生産拠点として位置づけしている。
- ③ASEAN の経済統合の方向性

ASEAN 経済共同体(AEC)は AEC の構成要素(ブループリント)に基づく経済共同体の設立を予定しており、経済分野を中心とした緩やかな連携体制の維持を図っている。

みずほ銀行 香港支店の視察風景



大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドの 講師を招いての研修風景



大和証券キャピタル・マーケッツ香港リミテッドによる講話 「アジアのマクロ経済」についての講話(一部抜粋)

- ①大和証券の香港での役割
 - ・インド～オーストラリアまで 12 カ店を展開し、従業員数は約 800 人
 - ・海外から日本へ良い投資商品の提供、日本株・アジア主要国の株式の世界への販売、ワラントのマーケットメイク、デリバティブ取引(東京市場のトレード)、債券取引(投資家へ販売)を行っている。
- ②アジアのマクロ経済

アジアの資金流入を主導してきたのは、米国の超低金利政策を背景とした先進国からの証券投資によってもたらされた潤沢な資金であった。

2015 年の世界経済は、多くの先進国の GDP 成長率は若干の改善にとどまり、米国が他国を大きくリードすると予想。

各国中央銀行の金融政策の足並みが揃わない中、米ドル高が続けば世界経済、特にアジアは強い影響を受ける。最近のウクライナとロシアの動向は地政学的リスクや原油価格リスクによって通貨が切り下がった場合、外貨建て債務の自国通貨建て負担額が増し債務持続性が悪化すると考えられている。

参加者の感想

- ・今回の香港・マカオの視察研修にて海外へ行くことで見聞を広めること、さまざまな知識を増やせることを改めて感じました。特に香港は東アジアの金融の中心であり、みずほ銀行・大和証券の方々から有益なお話を聞くことができ、今後取引先での海外進出があれば役立つと強く感じました。
- ・グローバルな金融機関の生の声を聴くことができたので、とても勉強になりました。
- ・香港・マカオについて大都市であることに対して非常に驚き、中国とは同じ国でありながら文化も違う事、一方で経済、観光面では非常に繋がりが深いことなど複雑な関係性があり興味深いものでした。

香港 薈色園にて



マカオから見たマカオの風景



次回の海外研修の実施について

平成 26 年度下期も同様に母体銀行の優績者(四総信保証付ローン優績者)を対象に海外視察研修を実施いたします。